

不当な差別に関する相談事例① 〔医療〕
受診時に、医師が検査結果を説明してくれなかった。
相談者
身体障害（肢体不自由）のある当事者 A さん
相談の内容
<ul style="list-style-type: none"> • 軽い認知症のある親の受診に A さんも付き添って行った。医師が検査結果を伝える場面で、本人（親）が認知症ということもあり、家族にも結果を聞いて欲しいとのことで、A さんも診察室に呼ばれた。 • 診察室が狭く、車いすでは入れなかったため、ヘルパーの介助で何とか歩いて入室したところ、医師が A さんを見て、（伝えても無駄だと判断したのか）検査結果を説明することなく、「もういいから」と説明を打ち切られた。 • 結局、医師から検査結果を聞くことはできず、看護師から「元の病院で治療するように」と待合室で知らされた。
相談者の主訴
<ul style="list-style-type: none"> • 医師の言動は、認知症の親と障害のある自分を見下した差別だと感じる。 • この医療機関に対応を改善してほしいが、親のことなので大げさにしたくない。対応した医師の特定や謝罪は不要だが、こういう相談があったことを伝えてほしい。匿名希望。
センターの対応と結果
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関に連絡し、外来担当者に本件を伝達し、差別解消法の啓発を行った。 2. 医療機関からは、「そのような出来事があったとしたら大変申し訳ない。日ごろから耳が聞こえづらい人には筆談を行うなど、配慮を心掛けているつもりだが、このようなことがないように職員間で共有する」という回答があった。 3. A さんに医療機関からの回答を伝達し、対応を終結とした。
センターからひとこと
<ul style="list-style-type: none"> • 障害者に対する偏見が社会的障壁につながる可能性があります。この医師には、「肢体不自由の方に検査結果を伝えても、理解できないだろう」という偏見があったのではないのでしょうか。 • また、付き添いの方やヘルパーにのみ話しかけるということは、「障害者の存在を意識しない状態」＝「社会的障壁」として、当事者の方にとっては苦痛となります。 • 情報の伝え方ひとつにしても、ご本人の意向を確認する等、柔軟な対応が必要です。